

大切な作物を害虫から守ります。

# カルホス<sup>®</sup> 乳剤

ロングセラーには理由がある!

1. 接触毒と食毒の両作用により、幅広い害虫に有効です。
2. 作物への吸収移行がないので、残留・残臭が少ない殺虫剤です。
3. 悪臭や刺激性が少なく、使いやすい。





# カルホス<sup>®</sup> 乳剤

- 有効成分：  
イソキサチオン…50.0%
- 人畜毒性：医薬用外劇物

## ■効果・薬害等の注意

- 石灰硫黄合剤、ホルドー液との混用はさけてください。
- 芝に使用する場合は、土壌面まで濡れるように十分な量を散布してください。
- オンシツコナジラミに対しては若令幼虫には有効であるが、卵、蛹には効果が低いため、若令幼虫の多い時期をねらって約1週間間隔でくり返し散布してください。
- いちごのコガネムシ類幼虫に対しては仮植床に植付けた後床面全面にジョロ等によって所定量を均一に灌注してください。
- とうもろこしのアワノメイガに対する散布適期は雄穂の出穂期であり、雄穂の出穂前後の2回散布が効果的です。
- すぎのスピゲイノタマバエ防除に使用する場合は、成虫の発生初期に地上3mの高さの樹幹部に樹皮表面積1㎡当たり600㎖を標準として散布してください。
- たまねぎ(育苗箱)に使用する場合、軟弱苗などには薬害を生じるおそれがあるので留意してください。
- さとうきびのハリガネムシ類防除に種苗浸漬処理で使用する場合、所定時間浸漬後風乾してから植え付けてください。
- さとうきびのアオドウガネ幼虫に使用する場合、なるべく若令幼虫の多い時期に合わせてください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- シクラメン、アジアンタムには薬害を生ずるので、かからないように注意して散布してください。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

## ■安全使用上の注意

- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱及び作業をしないでください。
- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 皮膚に対して刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 薬液調製時及び使用の際は保護メガネ、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗顔してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- ハウスで使用する場合は、換気に十分注意し、薬液がハウス内にこもらないようにしてください。使用後は十分に換気し、入室してください。

治療法：硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されています。

水産動植物への影響：水産動植物(魚類・甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また空容器、空袋等は、水産動植物に影響を与えないよう処理してください。

保管：密栓し、火気をさけ、食品と区別して、直射日光の当たらない涼涼な所にカギをかけて保管してください。盗難・紛失の際は、警察に届け出てください。

包装：100㎖×60本、500㎖×20本

## ■適用病害虫名及び使用方法

(平成25年12月現在の登録内容)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
とうもろこし	アワノメイガ	1000	100~300ℓ/10a		2回以内	散布	2回以内 (種子粉衣は1回以内)
みかん	ゴマダラカミキリ成虫 ミカンハモグリガ コカクモンハマキ クワゴマダラヒトリ若齢幼虫 ミカンサビダニ カイガラムシ類 コナカイガラムシ類 ミノムシ ケシキスイ類 カナタタキ	1000~1500	200~700ℓ/10a	収穫30日前まで	4回以内		4回以内
	コガネムシ類幼虫	1000~1500				3ℓ/㎡	
	キャベツ	アオムシ コナガ	1500~2000	100~300ℓ/10a	収穫21日前まで		
	たまねぎ	タマネギバエ	500~1000	育苗箱(約30×60×2.5cm、使用土壌約2ℓ)1箱当り500㎖	定植前	1回	
さとうきび	アオドウガネ幼虫 ハリガネムシ類	1000	1.8ℓ/㎡	夏季生育期まで	3回以内	12時間種苗浸漬	5回以内 (種苗浸漬は1回以内、植付時の土壌混和は1回以内、植付後は3回以内)
	ハリガネムシ類		—	植付前			
茶	コカクモンハマキ チャノホソガ ヨモギエダシャク チャノホコリダニ クワシロカイガラムシ	1500	200~400ℓ/10a	摘葉21日前まで	1回	1回	
	たばこ		ジャガイモガ タバコガ ヤサイゾウムシ ヨトウムシ				1000
樹木類(まさき、もっこく、すぎを除く)	カイガラムシ類 ケムシ類	1000	200~700ℓ/10a	—	6回以内	散布	
まさき	カイガラムシ類 ケムシ類 ユウマダラエダシャク						
もっこく	カイガラムシ類 ケムシ類 モッコクハマキ						
すぎ	カイガラムシ類 ケムシ類						
花き類・観葉植物(きく、ガーベラ、シクラメン及びアジアンタムを除く)	スギザイノタマバエ	50~100	樹皮表面積1㎡当り600㎖	成虫発生初期	4回以内	樹幹散布	4回以内
	オシツコナジラミ若齢幼虫	1000	100~300ℓ/10a	—	4回以内	散布	4回以内
きく ガーベラ	マメハモグリバエ オシツコナジラミ若齢幼虫	1000	1~2ℓ/㎡	発生初期	6回以内	散布	
芝	スジキリヨトウ シバツトガ シバオサゾウムシ ケラ コガネムシ類 タマナヤガ幼虫						

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 容器・空袋などは圃場などに放置せず、適切に処理してください。
- 防除日誌を記載しましょう。